

「希望を捨てる勇氣」

拝復 二週間のご無沙汰です。朝夕はめっきり冷え込み、静かに晩秋を迎えようとしています。先日「デジタルマーケティング NEXT2009」というメッセに行ってきたのですが、普通のスーツでは寒い。周りを見回すとマフラーをしている人、コートを着ている人を見かけました。「もうコートか?」と思いましたが、

会社勤めをやめるとこの手の飲み会から開放されます→。



気がつけば11月中旬、すぐそこに「師走」が迫ってきています。必然的に、新型インフルエンザが猛威を振るっています。これから2月くらいまでがピークなのでしょう。マスク着用者は20人に一人くらい（実際電車の中で数えました^^;）でした。あるTV番組で知ったのですが、予防策として「マ



スク」は非常に有効、手洗いも重要ということでした。意外だったのは「うがい」にはあまり効果が認められないという発言でした。発言者は日本のウイルス研究の権威でしたが、「ウイルスが入ってくるのは口からだけではない、したがってうがいもするに越したことはないが、効果はマスクや手洗いほどではない」ということでした。常識を疑うことは我々の仕事の鉄則ではありますが、意外でした。

さて、今号は低迷を続ける日本経済の復興について考えて見たいと思っています。ブログで「[足元の景気](#)」と題して政治家や官僚、マスコミが発表する「底打ち」感が全く見えない、という論を展開しました。いただいたコメントの中に、「最近こんな本が売れているそうですよ」と教えていただいたのは、[池田信夫著「希望を捨てる勇氣」（停滞と成長の経済学）](#)ダイヤモンド社 1600円（税込み）。早速アマゾンで取り寄せ熟読しました。この年になってもう一度マルクスを勉強するとは思いませんでしたが、非常に刺激的な良書だと感じました。今日はこの本の論旨を追い、日本が再び成長経済に戻ることが出来るのかどうかを検証したいと思います。

「この国には何でもある。いろいろなものがあります。だが、希望だけがない」（村上龍）

いきなりですが、この本はこの言葉が本当なのかどうかを検証しています。しかし哀しい文章です。前書きの中で著者は（一部略）

「今我々が直面しているのは循環的な不況ではなく大きな変化の始まりかもしれない。それは成長から停滞、そして衰退へという、どんな国も辿ったサイクルの最後の局面だ。それに適応して生活を切り詰めれば、質素で「地球に優しい」生活が出来る。日本は欧州のように落ち着いたしかも格差の固定された階級社会になるだろう。ほとんどの文明はそのようにして成熟したのだ。明日は今日よりよくなるという希望を捨てる勇氣を持ち、足るを知れば長期停滞も意外に住みよいかもかもしれない。」

いきなり「ズドン」ですね。確かにマスコミを筆頭とする論調は「循環的な不況からの脱出」を前提としています。日本は戦後 60 年間「好況 → 不況 → 好況・・・」というサイクルの中で経済大国を作り上げてきた。もっとも、「世界の経済大国」という言葉は実は 10 年ほど前からの新興国の伸びの中で相対的にはプレゼンスを低くしています。単純に GDP だけを見れば 2010 年には GDP 第二位の座を「中国」に抜かれることが確実になっている。1960~1980 年代のような「高度成長」はとっくに終わりを告げています。これは私自身も体感していました。

しかし、今回の金融危機からの「大不況」は、なぜ日本を直撃したのか。金融面からみれば、いわゆる「サブプライム」による損害は先進国の中では比較的軽微であったはず。しかし、世界不況の中で日本が最大の打撃を受けているのはなぜでしょう。

「輸出産業以外に収益の上がっている企業がほとんどなく、非製造業も含めて多くの企業がこうした一部の稼ぎ手の上げる利益のおこぼれに預かっていたのだ」と著者は喝破します。

さらに、これからの日本の経済成長が難しい理由を日本独特の「終身雇用制、労使関係」に求めています。実は「終身雇用制」はそれほど長い歴史があるわけではない。戦後、高度成長が続く中で、一人でも多くの社員を「つなぎとめたい」ための戦略として出来上がったもの。そして企業内組合という経営者と社員の「ななああ」の関係を通して世界にも珍しい経済システムが出来上がった。その結果が現在の「格差



←あのテント村の人達は今どうしているのかな。何も問題は解決していないのに

社会」を生み出したという。

「日本社会を荒廃させている格差の正体は、金持ちと貧乏人の差が広がったことではなく、絶対的な貧困でもない。ワーキング・プアと呼ばれる非正社員の年収も 200 万円前後で、アジア諸国の平均賃金より高い。問題は所得格差ではなく、企業に守られている正社員と労働市場からはじき出された非正社員の身分格差が固定されていることなのである」2003 年の法改正によってさらに厳しくなり「解雇は、客観的合理的な理由欠き、社会通念上相当であると認められない場合は、その権利を乱用したものとして無効とする」（労働基準法）

リーマンショックによる世界同時不況が勃発したときに、日本の製造業が最初に行ったことは「派遣切り」でした。マーケットが大幅に縮小してしまったのであるから、当然生産調整をかけなければならない。工場の稼働率を下げ、残業を禁じ、それでも減り続ける需要調整弁として「派遣切り」は行われました。日本の会社では「正社員」は非常に堅固に守られている。アメリカ映画などでよく見る「あなたは明日から会社に来なくていいです」というセリフで解雇されてしまう国とは全く正反対なのである。正社員はよほどのことがない限り「解雇」することは出来ない。であるから、今回のような大不況で企業が取る行動

は「非正社員の解雇」と「新卒正社員の雇用縮小」になってしまいます。



「こうした非正社員の若者がそのまま高齢化すると、40歳では同世代の正社員と年収の2倍以上の差がつき、専門的技術もないので、中途採用でまともな職につくことは期待できない。非正社員は下の世代になるほど多くなり、20~24歳の労働人口の43%を占める（青少年白書）。」政府公認です。

政府もこうした状況を認めている（OECD 合意）

「非正社員の比率は雇用者の三分之一を超え、公平と効率の面で深刻な懸念を惹起している。二極化の進行は、低賃金、短い職務経験（中略）の人々によって構成される大きな階層を作りだしている。これに対処するには**正規労働者の雇用弾力化**、非正社員に対する社会保障制度の適用範囲拡大や職業訓練プログラムの拡充を含めた幅広い対策が求められている」

「正規労働者の雇用弾力化」ってなんでしょう？これは「**正社員の雇用保護を削減**」せよと英語版には書かれている。なぜ誤魔化すのでしょうか。それがお役所の仕事だからです。（T_T）。

こうして身分を守られた正社員は、**年齢とともに高くなる給与（年功型賃金）によってますますその座にしがみつ়くことになる**。こうした社会では会社を辞めることが非常に大きなリスクになる。典型が公務員です。定年まで大人しくしていれば、**労働の対価としては不当に高い賃金と、退職金が保証**されている。同一業務同一賃金という原則が全く機能していないのが日本の企業です。

かくして日本型の雇用制度の中では若者に対して雇用機会を奪う結果となっています。企業は出来るだけ新卒の採用を避け、非正社員雇用を優先します。実はこれは日本だけの問題ではありません。フランスでも同様の状況で、フランスの若年労働者の失業率は25%近い。さすがに暴動にまで発展し、法改正が行われたが、職に就いたとしても3年以内であれば解雇が可能であるという条件をつけたため、あまり実効性がないものとなっています。

「デジタル化によって製品サイクルが短くなると労働需要の変動も大きくなる。社員には大きな変化が求められるようになる。昇進への評判が低くなることを恐れ本音をいえないストレスがたまる。それを発散するのが飲み屋や宴会の「無礼講」だ。（中略）世界のどこにも見られない、この**巨大な負のエネルギー**の中には、自分を取り巻く不合理な状況と闘うことをあきらめた無力なサラリーマンの姿が見える。**「社畜**」である。若者達にはおよそ1000兆円の国の借金と一人当たり数千万円にも上るマイナスの年金給付だけが残る」。昨夜見た森繁久彌の映画、社長シリーズはこれそのものでした。

こんな日本がかつての「成長経済」に戻ることが出来ますか？というのが著者の問いです。

「資本主義は、常に**新しいことを続けていないと競争に敗れる世界**だ。（中略）それは常にイノベーションによって利潤という不均衡を作り出さないと生き残れない自転車操業なのだ」「一般に企業は大きくなるほど成長率は鈍化するのので、経済全体が成長するためには常に新しい企業が出てくる必要がある。そうした企業精神も欠けているのが今の日本の社会である」確かに起業が減っています。IPOも。

リスクテイクのないところに発展・成長はない。今の日本の多くの会社はこれに対応できるのだろうか。

私にはこの会社を一旦破綻すべきだと思います。救済なんかするから、また同じことをやる→



低リスクの「終身雇用」が多くを占める日本経済に未来はあるのか。まさに今、旬の話題がその典型でしょう。一方、最近の新卒で優秀な人材は公務員や大企業よりも、つぶしの利く外資系投資銀行を目指している。いざというときに語学と金融の専門的な知識があれば**停滞する日本を捨て**、世界中で自分の仕事を探すことが出来る。今、気鋭のビジネスマンの経歴は驚くほどよく似ている。**BCG**や**アクセンチュア**で修行を積み、数回転職をした後に高い専門知識とプレゼン能力と語学を背景に活躍をしている。今、もっとも旬な勝間和代氏が代表格である。

「日本のように経済的に成熟した大国が急速な成長を続けることは不可能だし、それが望ましいかどうかはわからない。多くの調査によれば、一人当たり GDP と「幸福度」の相関は低く、**日本は所得は高いのに幸福度は世界で 90 位前後**だ。(中略) 所得の量を増やすことより、生活の質を高めることを考える時期だろう。」そういえば「**人間を幸せにしない日本というシステム**」という本がありました。

では、どうするか

「今必要なのは不公正で非効率的な経済構造を是正することだ。長期停滞の根源には、将来への不安がある。これを払拭するためには、全ての人にはチャンスがあり、努力すれば報われるという希望を取り戻し活気のある社会にしなければならない。資本市場や労働市場を柔軟に機能させて硬直化した資源配分を是正する規制改革と制度設計が必要である。今の日本に足りないのは希望ではなくて、変えなければ未来がないという**絶望ではないか**」言わんとすることは分かりますが、ちょっと抽象的ですね。

いかがでしたか？膨大な内容を限られたスペースに収めるために、意味を損なわない程度に文章の順番を入れ替えたり、意識をしたりしております。是非一読をお奨めします。読後感としては納得性が非常に高い良書であるというものでした。ただ私がかつて所属した「リクルート」のように年功型賃金を廃し、個々の仕事に「給与という値札」がついているという会社もあります。絶望とまで考えなくてもよいのではないかと感じました。どっこい、日本の会社もたくましい^^；。失われた 20 年の間に「筋肉質」への改善を行った底力がある、と信じたい。

あなたはあきらめますか？もがきますか？チャレンジしますか？私？日々チャレンジです (笑)。

それにしても、足元の景気はどうしようもない(T_T)。何かあれば一声かけてくださいm(_ _)m。

敬具株式会社アール・リサーチ 〒271-0051 千葉県松戸市馬橋 1896-1 ヴィレッジ K・I 馬橋 3 F

Tel 047-342-3181 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp

<http://r-research.co.jp/> ブログ、ほぼ、毎日更新しています→<http://rresearch.blog103.fc2.com/>